

平成 2 8 年度
磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
取組結果報告書

平成 29 年 10 月

～総合戦略について～

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、地方創生に関する本市の目標や施策の基本的な方向、また、施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項を定めたものであり、平成 29 年度からスタートした「第 2 次磐田市総合計画」の分野横断的な下位計画と位置付け、計画相互の整合性を図りながら、その推進を図っています。

また、変化する社会経済情勢や市民ニーズへの確かつ柔軟に、スピード感を持って対応ができるよう、必要に応じて見直しを行ってまいります。

～平成 28 年度の取組み・評価～

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、5つの数値目標に加え、23の重要業績評価指標（KPI）を設定し、各施策の効果を客観的に検証できるようにしています。

平成 28 年度の実績値を見ると、全体的には、概ね目標値（平成 31 年度）に向けて順調に推移しており、各施策に対する事業が計画通りに着実に遂行できています。

ただし、一部には総合戦略策定時の数値を下回る重要業績評価指標もあることから、今後も本戦略に位置付けた取組みを着実に推進することで、すべての重要業績評価指標を目標達成できるように進めていくことが求められます。

なお、すでに目標値を達成した重要業績評価指標については、目標値の見直しを検討していきます。

基本目標ごとの取組み・評価は以下のとおりです。

■「みんなが活躍できるまちづくり」では、地域エネルギー供給会社の設立を通じて低廉なエネルギーを供給する仕組みづくりを行うとともに、中小企業の支援体制の充実を図りました。

また、新たに7つの企業が市内に立地するなど、雇用の場の創出も行えたことから、新規雇用者数が当初5年間の目標としていた、500人を2年で達成することができました。

■「移住・定住したくなるまちづくり」では、進学などにより市外に転出した若者が、就労の場として本市に戻ってくるきっかけづくりとして、首都圏等における合同企業ガイダンスを開催しました。

また、新たに本市に興味を持っていただける人の増加を図るため、移住定住PRサイトの活用や、移住相談セミナーへの参加などを実施することにより、平成 28 年度は、396人の転入超過となりました。

■「若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり」では、「磐田市幼稚園・保育園再編計画（第2期）」を作成し、幼稚園、保育園の施設整備などを進めることで、3年連続で待機児童数ゼロを達成につなげることができました。

しかし、目標値である合計特殊出生率は、計画策定時 1.57 から 0.1 低下していることから、今後も結婚、妊娠、出産から育児までの継続した支援を行うことにより、子育てしやすい環境を整えていく必要があると考えています。

■ **「子どもたちが健やかに成長するまちづくり」**では、市内全地域における小中一貫教育の本格的実施や、放課後児童クラブの増設等による待機児童ゼロの達成を図るなど、子どもたちが学びやすい環境づくりを進めました。

また、中学生海外派遣やヤング草莽塾の実施など、地元を愛する子ども達を育てる事業を推進することにより、学校卒業後に磐田市へ就職を希望する高校生の割合が5%上昇するなど、その効果が着実に現れていると考えています。

■ **「安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり」**では、海岸堤防の整備や、道路照明灯のLED化、防犯カメラの設置など安全・安心なまちづくりを推進しました。

また、交流センターの整備や地域づくり協議会の設置に向けた取組みを進めることで、地域のコミュニティの活性化に努めました。

総合戦略体系図

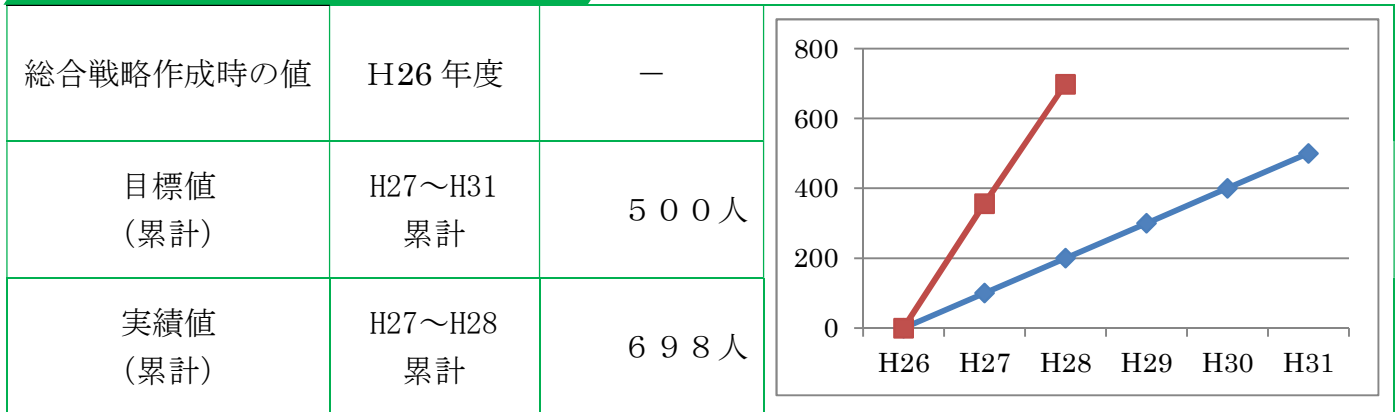
基本目標	数値目標	施策	主な取り組み
みんなが活躍できるまちづくり	新規雇用者数 500人 (5年間累計)	1-1 中小企業等の競争力の強化	① ビジネスチャンスの創出 ② 地域企業との情報共有
		1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援	① 企業誘致の推進 ② 創業・起業支援の実施
		1-3 元気な農林水産業の育成	① 企業の農業参入への支援 ② 安定した生産基盤の確立 ③ 地域資源を活かした魅力の発信
		1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援	① 求職者等就労支援体制の構築 ② 若者・女性への就労支援 ③ 障害者・高齢者への就労支援 ④ 創業・起業支援の実施【再掲】
移住・定住したくなるまちづくり	転入者数 100人超過 (5年間累計)	2-1 「移住定住」と「U・Iターン」の促進	① 移住・定住の情報発信と戦略の策定 ② U・Iターン就職の促進 ③ 良好な住環境の整備 ④ 広域連携による移住・定住施策等の推進
		2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進	① シティプロモーションの推進 ② イメージキャラクターの活用推進 ③ スポーツを活用したまちづくり ④ 文化を活用したまちづくり ⑤ ふるさと納税制度の活用推進
		2-3 新たな交流・集客の推進	① 観光・交流の推進 ② まちとお店のにぎわいづくりの推進
若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	合計特殊出生率 1.60	3-1 仕事と子育ての両立支援	① 幼稚園・保育園の保育環境の整備 ② 子育て環境の整備・充実 ③ ワークライフバランスの定着・促進
		3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実	① 男女の出会いの機会の創出 ② 妊娠から育児までの継続した支援 ③ 子育て相談体制等の充実 ④ 児童発達支援ネットワークの構築
子どもたちが健やかに成長するまちづくり	学校に対する満足度（児童生徒・保護者） 90%	4-1 特色ある教育の推進	① 学府一体校等新たな学校づくりの推進 ② 少人数教育等の推進 ③ 子どもを健やかに育む地域づくり
		4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成	① 体験を重視する教育の推進 ② 高校や大学との連携の推進
安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合 80%	5-1 安全で安心なまちづくり	① 地域の防災力・消防力の強化 ② 津波対策の推進 ③ 建築物などの耐震化の促進 ④ 安全なまちづくりの推進
		5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり	① 高齢者・障害者にやさしいまちづくり ② 生涯にわたる健康づくりの推進 ③ 地域に必要な生活交通の確保 ④ 環境にやさしいライフスタイルの推進
		5-3 地域コミュニティの活性化	① 自治会活動等への支援 ② 地域の拠点づくりの推進

基本目標

みんなが活躍できるまちづくり

数値目標

市独自調査による新規雇用者数



平成 28 年度実施状況

地域の経済と雇用を支える中小企業等の振興を図るため、産業展示会等への出展に関する支援や、いわた産業振興フェアを開催し、ビジネスマッチングの機会を創出するほか、がんばる企業応援団として178社の訪問を行い、中小企業の方々の意見を直接伺うことで、企業ニーズ及び実態の調査・把握に努めました。

また、若者や女性、障害者、高齢者の働く場の創出と創業・起業しやすい環境づくりのために、企業誘致を進めるとともに、女性起業家育成講座の開催、開業パーニアップ支援資金利子補給などを行いました。

一方、農林水産分野では、次世代型農水産業に係る施設の整備を支援し、異業種間連携による新たな経営モデルの創設を進めるとともに、新規就農や企業の農業参入を進めました。また、トマト・ケール・パプリカを高機能・高付加価値農産物として売り出していくために、どのような戦略が必要なのかを、実際の販売等を通して調査研究を行いました。

今後の課題

- 市独自調査による新規雇用者数の目標値である500人を2年で達成したことから、新たな目標値の設定が必要である。
- 市内企業における人材不足の状況が継続しており、中小企業等の支援のため、引き続き人材確保につながる施策を実施する必要がある。

中小企業等の競争力の強化

地域の経済と雇用を支える中小企業等の活性化を図るため、市内企業の競争力を強化する取り組みを支援します。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	産業展示会等出展支援事業による商談成立件数（補助金交付事業者への追跡調査による）	15件 (H26)	累計100件	40件 (H27~H28)
	中小企業の製造品出荷額等（経済産業省公表資料による）	4,874億円 (H25)	4,900億円以上	5,019億円 (H26) ※
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 姉妹都市マウンテンビュー市とのビジネスチャンス創出の可能性調査を行い、輸出に向けたマッチング事業を実施した。 ■ 27社（うち国内24件、国外3件）に産業展示会等出展支援補助金を交付し、商談機会を提供した。 ■ 既存産業の基盤強化や、新規事業の展開に向けた取組みの支援、新たな基幹産業の創出を図るため、179の企業・団体が参加して「いわた産業振興フェア」を開催した。 （来場者数：5,100人） ■ 電気、熱、二酸化炭素を供給する地域新電力会社の設立や取組みを支援し、市内中小企業等へ安価な電力等を供給することで、中小企業等の競争力強化を支援した。 ■ 職員が市内企業を訪問し、有益な情報を提供するとともに、ニーズ及び実態を調査する「がんばる企業応援団」を実施した。 （対象企業数 178社 訪問職員数 118名） 			

※現時点での最新数値



いわた産業振興フェア

企業誘致の推進と創業・起業支援

企業誘致や新たな工業用地を確保するとともに、創業・起業への支援を行うことで、企業立地や創業・起業のしやすい環境を整備します。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	新たな企業立地件数 (1,000 m ² 以上) ※太陽光発電事業を除く (企業立地動向調査による)	—	累計 20 件	9 件 (H27~H28)
	創業支援事業計画に基づく新たな創業・起業件数 (市内の関係機関への調査による)	—	50 件/年	109 件/年
内容	<p>■平成 28 年 4 月に竣工した下野部工業団地 (27 ヘクタール) への企業誘致を推進し、H29.3 月末時点で 2 社 (9.2 ヘクタール) の立地が決定、建設工事を実施している。(H29 年度に入り更に 1 社の立地が決定した。)</p> <p>■企業の立地相談に応じ、太陽光発電施設 5 件を含む 12 社 (約 11.4 ヘクタール) の誘致を行った。 製造業：磐田地区 2 件、竜洋地区 2 件、豊岡地区 1 件 物流：2 件</p> <p>■起業家精神を培うため、市内で事業を起こした企業等の代表者を小・中学校へ派遣した。(実施校数：5 校 受講者数：748 人、講師：14 人 (延べ))</p> <p>■女性起業家支援事業を実施した。 (女性起業家育成講座) 開催日：平成 28 年 6 月～7 月 毎週土曜日 全 6 回 内容： 起業を目指す女性を対象に、起業家育成支援講座等を実施。 参加者：15 人 (フォローアップ講座) 開催日：平成 29 年 1 月 7 日、21 日 内容： 女性起業家育成講座卒業生を対象に実施。 参加者：6 人</p> <p>■創業するために必要となる設備資金及び運転資金を借り受けた中小企業等に対して利子補給を実施した。(開業パワーアップ支援資金利子補給) (新規 9 件 利子補給額 121,500 円 継続分 10 件 利子補給額 106,400 円)</p>			

施策1-3

元気な農林水産業の育成

農林水産業の事業化や商品化に向けた支援体制を整え、生産基盤の強化や資源の有効活用を行い、安定した経営を実現します。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
	異業種からの新規農業参入企業数 (新たに農地の権利を取得した企業数)	8件 (H26時点)	累計13件	9件 (H28時点)
	農業委員会調査による新規就農者数	5人 (45歳未満) (H26)	累計20人	17人 (H26~H28)
内容	<p>■沿岸部の賑わいづくりのため、渚の交流館を整備し、運営を行った。 (来場者数：174,944人)</p> <p>【渚の交流館概要】 厨房スペース2箇所、物販スペース1箇所、客席交流スペース86席 客席交流スペース和室24席、テラス24席、授乳室、シャワー4室、事務室、 駐車場42台 隣接する津波避難タワーへの見学者数：27,825人</p> <p>■耕作放棄地の解消及び有効利用を図るため、担い手農業者（耕作者）へ支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田地区 30アール 路地野菜 ・富丘地区 19アール 路地野菜 ・見付地区 19アール 茶 ・豊岡地区 19アール 路地野菜 <p>■農業への新規参入を促すことを目的に、農業経営に意欲のある一般企業に、ほ場管理や栽培などの生産技術に加え、生産工程管理や労務計画、販路開拓といった経営ノウハウを教える、いわた農業経営塾の運営を支援した。(研修生2名が修了)</p> <p>■農業の担い手への農業集積を進めるため、農地移動（売買）のあっせんを行った。 (成立件数：11件、2.4ヘクタール)</p> <p>■農業を核とした新たな基幹産業の創出と次世代型農水産業の立地を積極的に推進するため市内で植物工場等の新增設を行う企業への補助金を交付した。</p> <p>【補助金交付企業「スマートアグリカルチャー磐田」の概要】 富士通株式会社、オリックス株式会社、株式会社増田採種場、3社の専門性に加えて、磐田市、種苗会社、農業生産者、流通・食品加工会社、学術機関、農業機械・資材メーカーなど、業種・業態を越えたパートナー企業・団体の知見を融合させ、食・農全体のバリューチェーン（種苗～生産～加工・出荷～販売など）において新たなビジネスモデルの共創を図り、強い農業づくりを実現することを目的とした会社である。</p>			

施策1-4

産業を担う人材の育成・就労の支援

求職者への支援を行うとともに、若者や女性、障害者、高齢者の働く場の創出と創業・起業しやすい環境づくりを進めます。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数（講座受験生の追跡調査による）	4件 (H26)	累計10件	4件 (H27~H28)
	障害者の福祉施設から一般就労への移行人数（福祉施設への調査による）	44件 (H22~H26)	累計52件	42件 (H27~H28)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■市内企業の人材確保を目的に、パート人材を求める企業とパート就職を望む方とのマッチングを行う、パートタイマー就職面接会を開催した。（参加：88名） ■商工会議所及び商工会と共催して、平成29年3月卒業予定の大学生や3年以内の既卒者を対象とした、就職面接会をH28年4月に開催した。 （参加学生：187名、参加企業：55社） ■いわた産業振興フェアにおいて、障がい者雇用促進のためのブースを出展し、障がい者雇用についてPRを実施した。 ■平成28年4月に竣工した下野部工業団地（27ヘクタール）への企業誘致を推進し、H29.3月末時点で2社（9.2ヘクタール）の立地が決定、建設工事を実施している。（H29年度に入り更に1社の立地が決定した。）（再掲） ■企業の立地相談に応じ、太陽光発電施設5件を含む12社（約11.4ヘクタール）の誘致を行った。 製造業：磐田地区2件、竜洋地区2件、豊岡地区1件 物流：2件 （再掲） 			



就職支援説明会

基本目標

移住・定住したくなるまちづくり

数値目標

転入者数

総合戦略作成時の値	H26 年度	0 人
目標値 (累計)	H27～H31 累計	転入者数 100人超過
実績値 (累計)	H27～H28 累計	372人 転入超過

Year	Migration Count
H26	0
H27	-20
H28	400
H29	60
H30	80
H31	100

平成 28 年度実施状況

首都圏等を中心に大学生などのU I J ターンの促進を図るため、合同企業ガイダンスの（年6回）開催や「就活準備セミナーin 東京」など就活に関するセミナーを開催するとともに、移住・定住希望者を呼び込むために、磐田市移住定住PRサイト「いいわたし@磐田市」の活用や、東京都で開催された「ふじのくにに住みかえるセミナー」に参加しました。

また、J R 磐田新駅の建設推進、J R 磐田新駅周辺の区画整理の実施、中古住宅リフォーム事業費補助金の交付により、良好な住環境を整備し、転入者の増加を図りました。また、新たな土地活用を促進するため、空き家除却事業費補助制度を創設しました。

そのほか、本市の魅力の発信や知名度の向上を図るため、ジュビロ磐田メモリアルマラソン開催の支援や、ふるさと納税を活用した市の特産品などのPRを行いました。特にふるさと納税寄附金においては、12,702件、10億円を超える寄附を全国からいただくことができ、多くの人に本市を知ってもらうきっかけを作ることができました。

さらに、毎回、1万人近くの方が訪れる「みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市」を開催し交流人口の増加も図りました。

今後の課題

- 首都圏で行う移住セミナーへの参加者が少なく、近隣市町と連携した取組など、イベントの方法・内容等について検討が必要である。
- 市の魅力の認知度拡大のためには、市民を巻き込んだ発信力の向上が必要である。
- 転入者数の目標値である転入者数100人超過を2年で達成したことから、新たな目標値の設定が必要である。

「移住定住」と「U I J ターン」の促進

首都圏等を中心とした大学生などの求職者や移住・定住希望者を呼び込み、就労や移住・定住につなげていきます。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
	U I J ターン就職促進事業による市内企業への就職者数 (就職促進事業参加学生への追跡調査による)	-	累計 150 人	65 人 (H27~H28)
内 容	<p>■新たな定住者を確保し、健全な地域コミュニティの保持及び空き家の有効活用を図るため、中古住宅リフォーム支援事業を推進した。</p> <p>【制度概要】 世帯員 2 名以上の方が、新築から 15 年以上が経過した建物を購入し、居住する場合に、リフォーム費用を最大 100 万円補助する。 (申請件数 30 件 補助金額 18,064,000 円)</p> <p>■新たな土地活用を促進するため、空き家除却事業費補助制度を創設した。</p> <p>【制度概要】 危険な木造住宅を除却し、更地にする工事費用を最大 50 万円補助する。</p> <p>■学生の U I J ターン就職促進を目的として、合同企業ガイダンスや業界研究フェア、各種セミナーを開催し、市内企業と学生のマッチングを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同企業ガイダンス (参加：162 名) ・業界研究フェア (参加：320 名) ・各種セミナー (参加：22 名) <p>■静岡県西部の 7 市 1 町で構成する「チーム西部」の連携事業として、東京都で開催された「ふじのくにに住みかえるセミナー」に参加した。(参加：6 名) 会場：ふるさと回帰支援センター 8 階セミナールーム (東京交通会館内)</p> <p>【チーム西部】 移住関連施策の先進事例紹介、県移住相談センター相談員を交えた意見交換を行うことで、移住・定住に係る西部地域ならではの施策や連携方策を検討するための団体</p>			



磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進

マスメディアやウェブサイトなどによる魅力の発信や知名度の向上により、「訪れたい」「住みたい」と思われるよう、誇りと愛着の醸成を図ります。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
	地域ブランド調査魅力度全国ランキング	430 位 (H26)	350 位内	513 位
内 容	<p>■ 農林水産品に限らず、「楽器」、「電動アシスト自転車」などの工業製品もふるさと納税寄附金の返礼品として取扱うことで、全国から多くの方に寄附をしていただき、市の貴重な財源となるとともに、市のPRを行うことができた。(寄附者の約半数が首都圏である。) 寄附件数：12,702 件、寄附金額：1,079,382,062 円</p> <p>■ 学校に希望する運動部活がない生徒に対し活動の場を提供する磐田スポーツ部活を実施した。(陸上競技部：19 名 ラグビー部 13 名)</p> <p>■ 県外、市外から 7,500 人を超える人が参加する、ジュビロ磐田メモリアルマラソンの開催を支援した。 (エントリー10,051 人 (県外 1,877 名、市外 5,858 名、市内 2,316 名))</p> <p>■ 郷土を誇りに思う気持ちの醸成を図るため、ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦を実施した。(市内全ての小学 5, 6 年生 約 3,200 人参加)</p> <p>■ リオデジャネイロオリンピックに卓球日本代表として出場した水谷隼選手、伊藤美誠選手の激励会、パレードなどを実施した。 (参加：約 35,000 名)</p> <p>■ 多くの市民に披露する場を提供するとともに、文化事業等の効果的な発信を行うため、市民参加型事業を実施した。 ・ダンスエボリューション (出演者:340 人、観覧者:2003 人) ・いわた de 音楽フェスタ (演奏者:488 人、観覧者 1739 人) ・自由演奏会 (演奏者：250 人、観覧者 410 人) など</p> <p>■ 市民に愛されるキャラクターしっぺいを使って、本市の魅力を市内外に発信した。 ・ご当地キャラクター、地域振興をテーマにした全国的なイベントに出演した。 ・市内幼稚園、保育園について、全園訪問を実施した。 ・製品だけでなく、チラシや看板、テレビCMなど、235 件の使用承諾を行った。</p>			

新たな交流・集客の推進

市が持つ様々な魅力を活用し新たな交流を生み出すとともに、にぎわいづくりを進めます。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
	観光交流客数 (県観光交流客数調査による)	357 万人	385 万人	381 万人
内容	<p>■ 農業体験や果物狩りの情報を、観光協会 HP や観光ガイドブックで紹介し広く PR した。</p> <p>■ 駅前ジュビロードの賑わいを創出するため、JR 磐田駅北側の「ジュビロード」を歩行者天国にし、軽トラック・軽自動車で、農産物や海産物、雑貨など、色々な商品の販売を行う、みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市 を開催した。 第 22 回：平成 28 年 5 月 8 日 出店数：91 台 来場者数：9,000 人 第 23 回：平成 28 年 9 月 11 日 出店数：103 台 来場者数：7,000 人 第 24 回：平成 28 年 12 月 11 日 出店数：103 台 来場者数：11,000 人 第 25 回：平成 29 年 3 月 12 日 出店数：106 台 来場者数：9,000 人</p> <p>■ 市民に個人商店・店主を知ってもらうため、商店主が「講座を企画」し、「講師となって」、お店の専門知識やプロだから知るコツを受講者に無料で教える磐田まちなめぐりゼミナールを実施した。 第 9 回 平成 28 年 8 月 10 日～9 月 30 日 53 講座 46 店舗 496 人</p> <p>■ 磐田駅北口広場完成に伴い、各種のイベントの開催を支援した。 ・夏の時期に NPO 法人によるビアガーデンの開催。 ・みんなで軽トラ市開催時に、「移動動物園」、「高校生の吹奏楽部による演奏」を行った。 ・商店街団体によるハロウィンイベントの開催。 ・駅前のにぎわい創出のため、駅北口広場のイルミネーションによる装飾を実施。</p>			



イルミネーション



磐田駅前広場

基本目標

若い世代が家族を増やしたくなるまち

数値目標

合計特殊出生率

総合戦略作成時の値	H25 年度	1.56
目標値	H31 年度	1.60
実績値	H27 年度	1.47

年度	合計特殊出生率
H25	1.56
H26	1.50
H27	1.47
H28	1.58
H29	1.59
H30	1.60

平成 28 年度実施状況

仕事と家庭生活を両立できる環境を整備するため、全公立幼稚園での預かり保育を実施したほか、公立幼稚園のこども園化、新たな民間保育園や小規模保育所の新設など、保育環境の整備を行うなどにより、3年連続で待機児童数ゼロの実現につなげました。

また、結婚、妊娠、出産から育児までの継続した支援を図るため、市内10ヶ所目となる子育て支援センターを福田こども園内に新設するとともに、婚活事業の実施や不妊治療に対する支援、こども医療費の助成などを行いました。

そのほか、発達の遅れや療育の課題があるとされる児童等を支援するため、県内では初めてとなる、児童発達支援と就労支援一体型施設である、「聖隷ぴゅあセンター磐田」を整備しました。

また、経済的に厳しい、ひとり親家庭への支援として「母子家庭等医療費助成」「母子家庭等自立支援給付金事業」「ひとり親家庭子育てサポート事業」を実施しました。

今後の課題

- 年度当初は待機児童ゼロを継続しているものの、年度途中には待機児童が増加している状況にある。特に割合の多い0歳から2歳までの保育ニーズに応えるため、さらなる定員の拡大が必要である。
- 合計特殊出生率の向上に向けて、新たな取り組みの検討・実施が必要である。
(目標値の変更は行わない。)

仕事と子育ての両立支援

男性も女性も子育てに向き合えるよう、仕事と家庭生活を両立できるような環境の整備を進めます。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	待機児童数ゼロの継続	待機児童ゼロ	待機児童ゼロ	待機児童ゼロ
	父母いずれか若しくは双方の育児休業取得率(乳幼児健診時のアンケート調査による)	70.0% (H25)	80.0%	83.8%
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの教育・保育環境の充実を図るため、園庭の一部を芝生化した。 ※豊岡南幼稚園、二之宮保育園、福田こども園 ■老朽化した磐田北幼稚園の園舎新築工事が本格開始した。 ■磐田中部幼稚園と磐田西幼稚園を統合し、新たな園舎を建築するために、「(仮称)中泉こども園」の基本構想を策定した。 ■厳しい財政状況においても将来にわたって多様な教育・保育ニーズに応え、充実した保育環境を持続していくために「磐田市幼稚園・保育園再編計画(第2期)」を策定した。 ■公立、私立保育園等を合わせて189人の保育園定員の増加を図った。(H28⇒H29) 私立保育園の新設及び定員枠の拡大による保育枠の増：174人増 公立幼稚園の子ども園化による保育枠の増：15人 ■子育て支援センターのイベント情報や健診・教室の日程など子育てに関する様々な情報を効果的に発信するため、子育て情報サイトを運営し、子育て情報の発信を行なった。(アクセス数27,352件) ■地域における育児の相互援助を支援するため、ファミリーサポートセンター事業を実施した。 (会員登録者998人 援助回数4,394回) ■仕事と家庭生活を両立できる環境を整備するため、全ての公立幼稚園で16時30分までの預かり保育事業を実施した。(利用者数39,040人) ■病気などのやむを得ない理由により、一時的に子どもを預かる一時預かり事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターでの一時預かり(利用者数557人) ・保育園での一時預かり利用者数(6,820人) 			

施策3-2

結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実

これから結婚し、家庭を持ち、子どもを産み育てる人が、その夢をかなえることができるよう支援するとともに、すべての子どもが健やかに成長するよう支援します。

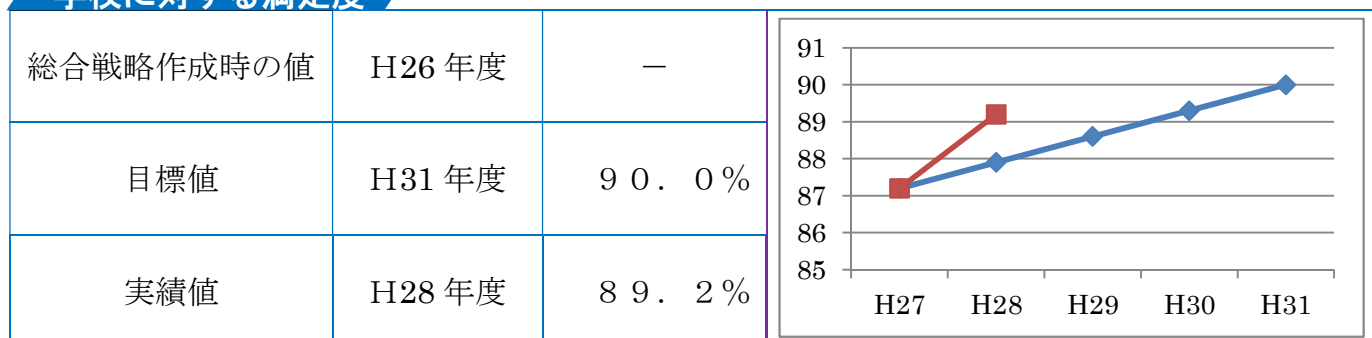
	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況
重要業績評価指標	これからも磐田市で子育てをしたいと思う親の割合 (乳幼児健診時のアンケート調査による)	66.8% (H25)	80.0%	96.9% (H28)
	婚姻数 (県人口動態統計調査による)	861件 (H25)	900件	808件 (H27)
内容	<p>■磐田・めぐりあい事業（市の直営による婚活事業）を開催した。 ①バーベキューでめぐりあい、②サーフィンでめぐりあい、③バレンタイン婚活列車、④スイーツ作りでめぐりあい 参加者：延べ88名（男性 44名 女性 43名）</p> <p>■婚活事業を支援するために補助金を交付した。 補助件数6件（磐田商工会議所、企業等） 参加者：延べ357名（男性189名 女性168名） （成婚 1組 お付き合い開始 1組 ※報告のあった件数）</p> <p>■不妊治療に対する助成を実施した。 ・特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）への助成231件 ・一般不妊治療（人工授精）57件</p> <p>■出産後120日までの子を持つ母親が、安心して子育てができるよう、希望する家庭に子育て相談員を派遣し育児相談を行う、子育て相談員地域連携事業を実施した。（申請者164人 派遣回数1,320回）</p> <p>■子どもの健康維持、保護者の経済的負担軽減のため、子どもの医療費について支援した。（H29年度から中学生までの入院・通院に係る医療費を完全無料化）</p> <p>■ひとり親家庭への支援として「母子家庭等医療費助成」「母子家庭等自立支援給付金事業」「ひとり親家庭子育てサポート事業」を実施した。</p> <p>■子どもから大人までの一貫した支援体制により、障害を持つ方の自立や就労につながることを期待される、県内初の施設「聖隷ぴゅあセンター磐田」の整備を行った。</p> <p>【施設概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就労支援施設（パン工房、クリーニング場、生活訓練室） ○児童発達支援施設（絵本コーナー、調理室、療育室） 			

基本目標

子どもたちが健やかに成長するまちづくり

数値目標

学校に対する満足度



平成 28 年度実施状況

全小中学校 32 校に学校運営協議会を設置し、コミュニティースクールとして指定し、「地域とともにある学校づくり」を推進することで、保護者や地域住民の声を学校教育に生かすことができました。

また、放課後児童クラブは、平成 27 年度から利用対象者が拡大されたため、夏休みの特別需要を含めた利用者増に対応するため 7 クラブの臨時開設、年度途中で 1 クラブの増設を行うことで、年間を通じて待機児童ゼロを維持するとともに、東部小学校及び豊田東小学校敷地内に放課後児童クラブ専用の施設の整備を行いました。

また、大藤小に放課後子ども教室を新たに開設し、11 学校 10 教室で実施しました。

さらに、次代を担う子どもたちにふるさとへの誇りと愛情を持ってもらうために、小学生ジュビロ磐田ホームゲーム一斉観戦や広島平和記念式典への派遣、中学生海外派遣研修のほか、高校生の市政参画、人材育成を目指して、ヤング草莽塾を実施しました。

今後の課題

- 放課後児童クラブの利用者は増加傾向にあることから、児童数が増加傾向にある小学校を中心に施設を整備し、待機児童が生じないようにする必要がある。

特色ある教育の推進

子どもを学ばせたいくなるような魅力ある教育を推進するとともに、「地域とともにある学校づくり」を進めます。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	英語への興味・関心・意欲のある児童生徒の割合（市独自のアンケート調査による）	70.18% (H26)	80.0%	79.5%
	地域や社会への興味・関心のある児童生徒の割合（全国学力学習状況調査による）	60.9% (H27)	70.0%	61.5%
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■各中学校区において小中共通の目標、カリキュラム、指導方法等を9年間を貫いて設定し、小中協働で教育を実施する、学府による小中一貫教育を全学府で本格実施した。 ■全小中学校 32 校に学校運営協議会を設置し、保護者や地域の方が、学校運営の基本的な方針や、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、学校の様々な課題解決に参画する制度を実施した。 ■本市初めての小中一体校として、「ながふじ学府一体校」の整備に向けて、地域の意見を聞きながら基本構想を策定した。 ■市内 22 小学校区において、当初は 43 放課後児童クラブを運営し、7 月には 7 クラブの臨時開設、11 月には 1 クラブの開設を行うことで、待機児童ゼロを年間をとおして維持した。 ■子育て相談機能・図書館機能などを併せ持った、新たな（仮称）子ども図書館の設置に向けた基本構想を策定した。 			



小中一貫教育のイメージ

ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成

次代を担う子どもたちにふるさとへの誇りと愛情を持ってもらい、より良い地域づくりに取り組もうとする人材を育成します。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値(H31)	達成状況(H28)
	学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合（市独自の高校生へのアンケート調査による）	34.0% (H27)	50.0%	37.2%
内容	<p>■ これからのまちづくりを担う中学生の幅広い視野を養成し、地域に対する理解を深めてもらうため、中学生海外派遣事業(台湾)を実施した。(参加：15人) 【平成28年8月に3泊4日で実施】 ○ ヤマハ発動機(株)台湾工場の見学及び社員との交流 ○ 日本語を学ぶ台湾人大学生の案内による台湾市内見学と交流等</p> <p>■ 高校生の柔軟な発想を市政に生かすとともに、さらなる市の発展に向けて、将来のまちづくりを担う人材を育成するため、行政課題の解決策等について研究する「ヤング草莽塾」を実施した。 市内全ての高校、6グループ(50名)が参加した。 【提案の実現】 ○ 季節にちなんだイルミネーション(磐田北高)の実施(H29年度予定) ○ しっぺいベンチ(磐田北高)の実施(H29年度予定)</p> <p>■ 多感な年齢である中学生が、自分自身で感じた「平和への思い」を自分の言葉で伝えてもらうため、広島記念式典中学生派遣事業を実施した。 【平成28年8月5日実施 参加：市内の小中学校代表33人が参加】</p> <p>■ 郷土を誇りに思う気持ちの醸成を図るため、ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦を実施した。(小学生約3,200人参加)(再掲)</p>			



中学生海外派遣



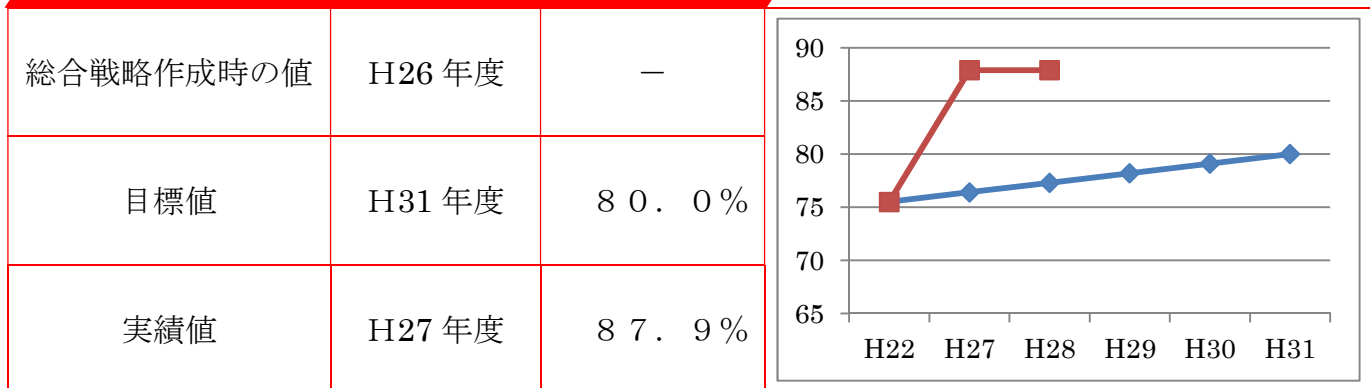
ヤング草莽塾

基本目標

安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり

数値目標

「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合



平成 28 年度実施状況

安全で安心なまちづくりを進めるため、道路照明灯のLED化や竜洋海洋公園工区、海岸防災林工区及び太田川右岸工区で延長691mの海岸堤防を整備するとともに、犯罪を抑制し市民の安全を確保するため、市内10ヶ所に13台の防犯カメラを設置しました。

また、すべての市民が住みやすいと思えるようなまちづくりを進めるため、デマンド型乗合タクシー「お助け号」を全8路線で運行するとともに、市内にバス路線を有する交通事業者に対し、路線の運行維持に関する補助金やバスの待合・乗継環境向上のための施設整備に関する補助金を交付しました。

認知症高齢者の見守りのため、事前登録制度を設け、行方不明になった場合などの早期発見ができるようにしました。

また、新たな交流センターの建設や地域づくり協議会の設置に向けた取組みを行うことで、地域の課題を解決する仕組みづくりを行いました。

今後の課題

- 高齢化等による、地域活動の担い手不足は、地域活動の停滞を招きかねない問題であることから、地域づくり協議会への様々な支援が必要である。
- 磐田市が住みやすいと答える市民の割合が、目標値を上回っており、指標が5年に一度しか行わない市民意識調査であることから、指標の変更を検討する必要がある。

安全で安心なまちづくり

防災・減災対策を市民と連携して進めるとともに、消防・防災体制の強化を図り、災害に強い安全で安心な地域をつくります。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	緊急輸送路上の橋梁の耐震化率(橋長 15m以上)	70.6% (H26)	94.1%	88.2%
	犯罪発生件数(磐田警察署の犯罪白書より)	1,044件 (H26)	800件	1,007件
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■海岸線延長 11Km に対し、海拔 14mの海岸防潮堤を整備する海岸堤防建設促進事業は、竜洋海洋公園工区、海岸防災林工区及び太田川右岸工区で延長 691mを整備した。 (全体で 358m整備完了) ■災害時の情報伝達の強化を図るため、同報無線のデジタル化整備に着手した。 (～平成 30 年度) ■犯罪を抑止し、市民の安全を確保するために市内 10ヶ所に 13 台の防犯カメラを設置した。 ■上水道の基幹管路(口径 300mm以上)について、耐震化率 71.7%とした。 ■木造住宅等の耐震化を推進するため、わが家の専門家診断事業 126 件、既存建築物耐震性向上事業 67 件、木造住宅耐震補強助成事業 38 件の助成を実施した。 ■常備消防車両として、化学消防ポンプ自動車と指揮車及び水槽付消防ポンプ自動車を更新した。 ■消防団活動(非常備消防)の充実強化を図るため、指揮車と可搬式小型動力ポンプの更新及び多目的可搬積載車を整備した。 			



海岸防潮堤

だれもが暮らしやすいまちづくり

子どもや女性、高齢者、障害者など、すべての市民が住みやすいと思えるようなまちづくりを進めます。

重要業績評価指標	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
	お達者な人(65歳以上の要介護認定なし+要介護1以下)の割合	92.0% (H26)	92.0%	92.19%
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ デマンド型乗合タクシー「お助け号」全8路線の運行委託を実施した。 (利用者数：延べ9,782人) ■ 市内にバス路線を有する交通事業者に対し、路線の運行維持に関する補助金及びバスの待合・乗継環境向上のための施設整備に関する補助金を交付した。 (補助額：13,699,000円) ■ 子どもから高齢者までの様々な健康相談や健康講座を行う「まちの保健室」を実施した。(137回、参加者3,691人) ■ 市民の利用が想定される障がい者福祉施設に対し、施設整備補助、償還金の補助を実施した。(施設整備補助6件 償還金補助8件) ■ 市内企業が開発した実証試験のための小型風力発電施設をエコパーク内に整備した。 			



まちの保健室

地域コミュニティの活性化

市民一人ひとりが、地域の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる環境を整備し、地域コミュニティの活性化を促進します。

	指標内容	基準数値	目標値 (H31)	達成状況 (H28)
重要業績評価指標	自治会加入率（世帯）の維持	83.16% (H27)	83.16%	82.51%
	交流センター利用者数	603,624人 (H26)	650,000人	643,172人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ■調理実習室・会議室・研修室を備えるとともに、屋上には災害時に一時避難できるスペースを確保した、豊浜交流センターを建設した。 ■地域で様々な活動を行っている、複数の団体が連携して地区の課題等に取り組むための組織、「地域づくり協議会」の設立を支援した。 			



豊浜交流センター